

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

<※平成 29 年度からの 3 か年目標>

1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての教員の指導」に関する項目における満足度（平成 28 年度 68%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 74%にする。

2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (4) ICT機器の活用や研究発表活動、アクティブラーニングの機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (5) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
- (6) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。

【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率 90%以上。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 名以上。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路実現に関する項目」における満足度（平成 28 年度 83%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 89%にする。

3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度（平成 28 年度 58%）を毎年 3%引き上げ、平成 31 年度には 67%にする。

4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域の清掃活動や各種施設等に対する、生徒の参加の機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者（平成 28 年度参加 350 人）を毎年増員し、平成 31 年度には 400 人にする。

5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題がある生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
- (3) 知的障がい者自立支援コース生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 28 年度 72%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 78%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) あいさつ運動と生徒との対話の推進 (2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成 (3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実	(1) 校内でのあいさつを積極的に推進し、対話を重ねることで、学校で楽しく生活することができる雰囲気を醸成する。 (2) <input type="checkbox"/> 授業の開始と終了時の号令、授業中の規律について生徒自らが徹底するように努める。 <input type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を充実させる。 (3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※平成 28 年度 61% →65%目標 (2) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※H28 年度 68%→70%目標 <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※H28 年度 40%→43% (3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※H28 年度 50%→54%	

<p>2 進路指導の充実</p>	<p>(1) キャリア教育指導の再構築</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(4) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(5) 家庭学習の定着</p> <p>(6) 語学研修や国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 普通科専門コースの完成年度を迎え、生徒向けの進路選択及び科目選択のガイダンスを強化する。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスセンターを活用し、生徒の自主性を育てる。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 教科会議で育てたい生徒と身に着けさせたい学力を確認し、教科として3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」と「生徒のニーズ」に関する協議を常時議論し、教員研修の機会を持つ。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> ICT機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために、教育産業による学力分析システム等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p> <p>(6) 海外語学研修を実施し、多方面での国際交流活動を推進する。平成28年度まで隔年実施、29年度から毎年実施予定。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/>及び<input type="checkbox"/></p> <p>①生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※平成28年度81% → 84%目標</p> <p>②卒業時の国公立大学及び難関私立大学学合格者数の合計15名以上</p> <p>(2) ①生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 ※平成28年度60% → 65%目標 授業アンケート全教科平均値の向上 ※平成28年度3.21 → 3.25目標</p> <p>(3) ※平成28年度教員研修（教科指導） → 2回目標</p> <p>(4) <input type="checkbox"/>生徒向け学校教育自己診断におけるICT機器に関する項目の肯定的回答の向上 ※平成28年度48% → 52%目標 <input type="checkbox"/>生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※平成28年度40% → 45%目標</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※平成28年度45% → 48%目標</p> <p>(6) 語学研修参加者アンケート、参加後の満足度肯定率70%以上目標</p>	
<p>3 特別活動の充実</p>	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの、生徒の積極参加を促す。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) ホームルーム活動を生徒の主体的な活動と位置づけ、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※平成28年度54% → 57%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※平成28年度40% → 45%目標</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答の向上 ※平成28年度63% → 66%目標</p>	
<p>4 地域連携の充実</p>	<p>(1) 学校広報活動への生徒による主体的参加の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 情報発信力の再構築</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学において、生徒会役員・クラブ員・その他有志の生徒を積極的・主体的に参加させる。司会・案内を生徒が中心となって行う等、生徒を中心に置いた広報活動を展開する。</p> <p>(2) 曙川東地区を中心とした清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の良さを、積極的に地域に伝える。新ホームページを活用した情報発信力の強化と広報力の向上をめざす。</p>	<p>(1) ※H28年度：生徒参加延べ150人参加 → H29年度：170人参加目標</p> <p>(2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数 ※H28年度：延べ350人参加 → 380人目標</p> <p>(3) ※学校説明会参加者延べ400人目標</p>	
<p>5 人権教育の充実</p>	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p> <p>(3) 自立支援コース生徒との交流促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力を強化するとともに、生徒が、命の大切さや人権についての意識を高めるような指導を充実させる。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p> <p>(3) 自立支援コース生徒と他生徒との相互交流の機会を増やし、相互の信頼と協同の機運を高める。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目における肯定的回答の向上 ※H28年度72% → 74%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※H28年度46% → 50%目標</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目における肯定的回答の向上 ※H28年度72% → 74%目標</p>	